

## 【4】『改ざん聖書』を作ったオリゲネスとは？

《現代版聖書のルーツ》より抜粋

[PDFファイル](#)

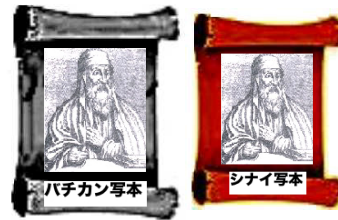
バチカン写本とシナイ写本は、エウセビウスにより、オリゲネスの『改ざん聖書』から作られました。

(詳細は→[聖書の歴史 E-11 『オリゲネスの『改ざん聖書』とは？』](#)参照)

■オリゲネスの『改ざん聖書』



■エウセビウスの『50冊の聖書』  
(バチカン写本・シナイ写本を含む)



オリゲネスの弟子がパンフィルスであり、パンフィルスの弟子かつ友人がエウセビウスでした。  
パンフィルスとエウセビウスは共同で図書館を設立し、オリゲネスの著作物をそこに収めました。



オリゲネス (185年頃～254年頃)



(その弟子) パンフィルス (~309年)



(その弟子・友人) **エウセビウス** (～340年)  
(パンフィリスとともに図書館を設立。オリゲネスの著作物を取めた)

オリゲネスは、次のような人物でした。(詳細は→[D-4](#)参照)



## ■ギリシャ哲学の追従者

オリゲネスは、**エジプト**のアレクサンドリアにある学校の第三代の**校長**でした。ただし、その学校は、紀元180年に、**ギリシャ哲学者**のパンタエヌスによって設立されたものです。

オリゲネスは、**新プラトン主義**の創始者アンモニオス・サッカス(紀元170年～243年)から教えを受けていました。新プラトン主義は、**アリストテレス論理学**と**東洋のカルト**の教えとの奇妙な組み合わせです。

その**哲学**の追従者であるオリゲネスは、その見解を**キリスト教に融合**させようとしていました。

## ■聖書改ざん者

オリゲネスは広範囲に旅をし、どこでもギリシャ語の**新約聖書**を見つけると、それを**自分の教理**にぴったり合うように**改ざん**しました！

もちろん、彼は、自分はそれらの**写本**を「**修正**」しているだけだと考えていました。

しかし、神の人々が**原文の読み方を変える**ことはないはずです。



オリゲネスには、一人の**裕福な後援者**(アンブロシウス)がいました。アンブロシウスは、七百人以上の速記者と、大ぜいの写字生、および、字の達筆な若い女性たちを用意し、オリゲネスが聖書を**組織的に改ざん**するのを**援助**しました(エウセビウス『教会史』)。

## ■オリゲネスの信念

その一部は、次の通りです。(詳細は→[D-4](#) [《オリゲネスの信念》](#)を参照)

- 彼は、「**洗礼による生まれ変わり**」を信じていました。(人は**水のバプテスマ**によって**救われる**という信念)
- 彼は、「**万人が救われることになる**」と信じていました。すなわち、サタンおよび悪霊どもを含めて、すべてのものが最終的には**和解**されること、です。
- 彼は、「**イエスは一人の被造物にすぎない**」と信じていました。

- 彼は、「人は罪のない者となるために、煉獄(れんごく)に行かなければならない」と信じていました。この教理は、聖書のどこにも見出されません。
- 彼は、「聖餐式の時、パンとぶどう酒が実際にキリストの体と血に変わる事(化体)」を信じていました。
- 彼は、「前世からの生まれ変わり」および「カルマ」を信じていました。すなわち、人のたましいは、この現在の地上に存在するより前に、別の世界で先に存在しており、その前世からの祝福あるいは呪いを持ち込んだということです。
- 彼は、「バプテスマを受けない幼児は地獄に行く」ことをほのめかしました。
- 彼は、「聖書に書かれているようなイエスへの試みが本当に起こったとは、知的な人なら信じる事ができないはずだ」と主張しました。
- オリゲネスは、イエス様の言われたことを正すことさえしました。  
マタイ13・38にある「種を蒔く人」のたとえの箇所、イエス様は、「畑とは、この世です」と言っておられます。  
ところが、オリゲネスは、「畑とはイエスであった」と言いました。その後、彼は考えを変えて、畑を「聖書のことだ」としました。
- 彼は、「聖書は、文字通りに解釈するものではない」と信じていました。  
(オリゲネスは、「寓話的解釈の父」でした)
- 彼は、実際に「アダム」が存在したことも、「人間の墮落」も信じていませんでした。  
また、「創世記一章～三章は、文字通りに解釈すべきものではなく、歴史的な記述でもない」と信じていました。
- 彼は、「マタイ十九章は、『神の人は去勢を受けるべきであり、自分自身を去勢し続けていくべきである』と解釈するのが正しい」と信じていました。...

まとめると、こうなります。

#### ■ オリゲネス



聖書改ざん者

- 広範囲に旅をし、どこでもギリシャ語の新約聖書を見つけると、それを自分の教理にぴったり合うように改ざんした。
- 新プラトン主義の創始者から教えを受けた。
- イエスは一人の被造物にすぎないと信じた。
- 『前世からの生まれ変わり』を信じた。
- 「洗礼による生まれ変わり」(人は水のバプテスマによって救われるという信念)を信じた。
- 「人は罪のない者となるために、煉獄(れんごく)に行かなければならない」と信じた。

オリゲネスの**思想・信念**は、こうでした。

【ギリシャ哲学】・【新プラトン主義】  
 【万人が救われることになる】・【イエスは一人の被造物にすぎない】  
 【人は罪のない者となるために煉獄に行かねばならない】・【前世からの生まれ変わりを信じる】  
 【バプテスマを受けない幼児は地獄に行く】・【聖書は、文字通りに解釈するものではない】  
 【アダムの存在も人間の墮落も信じない】・【創世記一章～三章は歴史的記述ではない】

オリゲネスは、「**イエス様の言われたことを正すこと**さえしました」(→D-4《[オリゲネスの信念](#)》参照)

つまり、彼は、「**イエス様の**言われることよりも**自分の主張のほう**が**正しい**」としたのです。

彼の**主**は、イエス様ではなく、**自分自身**でした。

彼にとっては、『**イエス様は自分よりも下**』だったのです！

★**オリゲネス**は、ギリシャ哲学の影響を受け、**聖書**をそのまま受け入れず、  
**自分の教理**に合うように**改ざん**した『**異端者**』であった。

彼が作った聖書には、【**異端エビオン主義**】・【**異端グノーシス主義**】という要素も含まれており、こういうものでした。

★**オリゲネス**の『**改ざん聖書**』には、  
 《**異端者たちの『聖書』**》と《**外典**》が含まれている。

★**オリゲネス**の『**改ざん聖書**』は、  
 『**異端の教え**』と『**改ざん聖書本文**』から成る『**異端聖書**』である。



- 【1】 **ネストレ版/UBS版聖書**に関わった『**現代版聖書の編集者たち**』とは？
- 【2】 **聖書本文RV**を作った『**RVの編集者たち**』とは？

→ **【3】** [バチカン写本・シナイ写本](#)を作ったエウセビウスとは？

[《UBS版聖書本文とは？》](#)    [《ネストレ-アーラント版聖書本文とは？》](#)    [《聖書協会UBSとは？》](#)

[《キリスト教界でほとんど知られていない事実》](#)    [ネストレ-アーラント版/UBS版聖書本文の検証](#)

[聖書の歴史](#)   [目次](#)   [聖書のホームページ](#)

[TR 新約聖書](#)

[選択カテゴリにジャンプ!](#)

[利用規約](#)   Copyright C. エターナル・ライフ・ミニストリーズ